コミュニティ・スクール 宇久中学校

宇久中学校だより 海原

令和８年11月11日（水）
第１０号
佐世保市立宇久中学校
校長　永山　幹人

宇久中学校HPは上の二次元バーコードから

宇久中学校へのご意見等はこちらから

ふるさとを愛し　主体的に学習し　自らの判断で正しく行動できる生徒の育成

宇久島の芸術の祭典
宇久文化祭が行われました

宇久文化祭について

10月31日（土）、11月1日（日）の二日間、宇久島の秋の一大イベントの一つ、「宇久文化祭」が宇久小学校体育館、宇久地区コミュニティセンターで行われました。中学校からは、「なぎなた踊り」、「エイサー」、「合唱」、「バンド演奏」、「全校合唱」、「吹奏楽部の演奏」で参加しました。11月1日の発表の様子です。

なぎなた踊り披露

１０月１４日に本飯良の八幡神社で披露した「なぎなた踊り」を文化祭でも披露させてもらいました。今回は宇久中OB・OGの方々の協力で、おはやしの生演奏に乗せての披露になりました。本番も息ぴったりで、素晴らしい踊りでした！




エイサー・バンド演奏

エイサーは地域のサークルの発表です。中学校からも4名の生徒の参加がありました。

バンド演奏を披露したのは、３年生の有志４名に先生１名を加えた５ピースバンド、その名も「しまんもん」。昼休みにコツコツと練習を重ねて、その成果を発揮してくれました。




合唱・吹奏楽部の演奏

合唱は宇久のサークル「のばら会」さんとの合同演奏、11月12日（木）の佐世保市音楽発表会で歌う「正解」での参加です。思いがこもった素晴らしい演奏に涙する方もいらっしゃいました。

吹奏楽部は、中学校のみの演奏と、宇久高校、宇久のサークル「SEA WEST」さんとの合同演奏でした。アンコールでは、小中学生が演奏に合わせて宇久島の歌「宝島」を歌いました。

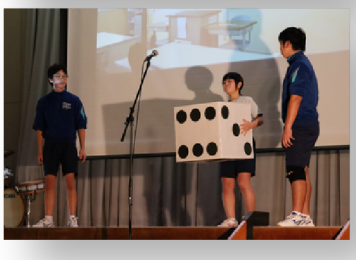




宇久実践の活動の紹介

中学校の発表のメインは「宇久実践の報告」です。７月７～８日に行った「野外学習活動」の内容をクイズを交えた劇で紹介しました。シナリオや演出、大道具、小道具、すべて生徒の手で作り上げた「主体性の塊」の発表で、会場は大盛況！素晴らしい発表になりました。






本番はもちろんですが、準備の段階から、中学校が目標としている「主体性」を十分に発揮した、素晴らしい取り組みになりました。活躍の場を与えてくださった宇久町自治協議会の方々、応援していただいた地域の方々、生徒を支えてくださった保護者、宇久中学校の先生方、本当にありがとうございました。

学習の成果の振り返り

文化祭終了後、取組を振り返りました。子供たちから出てきたコメントから、生徒たちも自分たちの成長を実感していることがわかりました。感想や反省の一部を紹介します。

＜① 文化祭の準備に主体的に取り組むことができましたか？（その理由）＞

リーダーとして自ら指示を出し、周りと協力して取り組むことができた。
自分の作業が終わった後、「次は何を作ればいい？」と聞いて手伝うことができた。
自分の班だけでなく、遅れている他の班のサポートに率先して入ることができた。
何を作らなければいけないか、どうすれば時間に間に合うか、先を見通して行動できた。
劇を一から自分たちで創り上げる楽しさを感じながら、自分にできる役割を探せた。
先輩・後輩と学年を越えて協力し、意欲的に小道具づくりに取り組めた。
クラスメイトと授業中から協力して原稿を考え、読み合わせができた。
「観客の皆さんに良い劇を見せたい」という目標に向かって行動できた。
上級生が進めてくれて、自分から仕事を見つけられない時もあったので次は頑張りたい。

＜② 劇の準備において、一番がんばったこと・工夫したこと＞

自分が作りたいものではなく、「他の人が何を求めているか」を考えながら作成した。
観客の方々に内容が伝わりやすいよう、スライドの文字や画像の配置を工夫した。
場面に合った音源を探し、劇をさらに盛り上げるスライドづくりを頑張った。
手を抜かず、サイコロや手紙などの小道具を細部（色合いなど）までこだわって製作した。
早く小道具を作り終えるよう集中し、終わったら他の作業の手伝いに行った。
班内で役割分担を明確にし、それぞれの進み具合を確認しながら作業を進めた。
劇のセリフだけでなく、どのような動きをすれば伝わるかを一生懸命覚えた。
ジェスチャーを考えたり、同じ場面のメンバーを引っ張って積極的に練習した。
より面白くするために、原稿に自分たちなりのアイデアやネタを盛り込んだ。

＜③ 劇の本番、役者として一番頑張ったこと・工夫したこと＞

後ろの席の方まで聞こえるように、はきはきと大きな声を出すことを意識した。
恥ずかしさを完全に捨てて、「吹っ切れた演技」を全力でやり切った。
遠くからでも見えやすいように、身振り手振りのアクションを大きくした。
観客が聞き取りやすいように、声量を上げつつ、少しゆっくりとセリフを言った。
役柄（MCなど）の雰囲気を出すために、毎晩家で練習して喋り方を工夫した。
自分が話すだけでなく、次の動きや周りの人の動きをよく見ながら演技した。
セリフが飛んでしまわないよう、出番の直前までメモを何度も読み返して確認した。
ステージ上で迷うことがないよう、立ち位置や他のメンバーとの間合いを意識した。

＜④ 劇制作全体を通して、自分が一番成長したと思うこと＞

様々な人とコミュニケーションをとり、協力して一つのものを成し遂げる力がついた。
「やらないといけないこと」を自分で探し、周りを見て先読みして行動できるようになった。
実行委員長やリーダーとして、みんなをまとめるための「声掛け」ができるようになった。
複数の作業を同時に進める「マルチタスク」の能力や、計画的に動く力が身についた。
短い準備期間の中で、時間をどう使えば効率的かという「時間の使い方」を学んだ。
恥ずかしがらずに、自分の意見を積極的に発言したり、行動したりできるようになった。
人前で堂々と大きな声を出し、本番のプレッシャーにも少し強くなったと感じる。
ただセリフを言うだけでなく、「見ている人が面白いと思うには」と工夫する力がついた。

＜⑤ 本番を終えての感想・来年度への引継ぎなど＞

中学校最後の文化祭、来てくださった方々と一緒に自分も最高に楽しむことができた！
準備期間が短く不安もあったが、劇が本番に間に合い、無事に成功して本当に安心した。
見ている人を笑顔にできるような劇を、またみんなで協力して作りたいと強く思った。
劇の制作はとても大変だったが、その分、自分自身が大きく成長できたと感じる。
来年ももし準備に関わるなら、今年の経験を活かしてもっとクオリティの高い道具を作りたい。
セリフは言えたが後ろまで声が届かなかったかもしれないので、次はもっと声を張りたい。
情報共有の不足で噛み合わない場面があったので、来年はこまめな確認と声掛けを徹底したい。
仲間と協力して一つのものを創り上げることの楽しさと、達成感を深く味わうことができた。